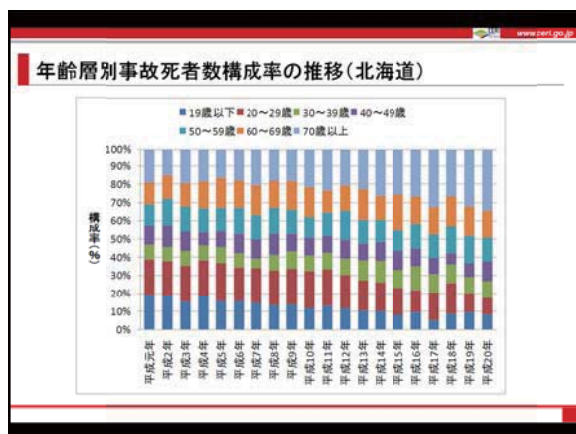


はないかと我々は考えております。



その内訳はといいますと、実は、70歳以上の方がどんどん死者数の構成率に占める割合が増えております。ここに我々、世代というものを分析して、実はこの辺は萩原先生にお話ししてほしいのですが、もうそろそろ団塊の世代の方がこの時期に突入してきて、その方々は、ほかの世代に比べて事故率が高いんですね。そういう方々が増えてくると、今まで減少していたというのがかなり鈍化して、もしかしたら増加に転じるかもしれないというところまで今来ております。

では、我々としてはどうするかというと、来るべきそういうことに対して、今以上、多分、事故対策の技術革新というものを行うのか、そういったものに備えるために何か行動を起こさなければ、恐らくこの先、目標を達成できないだろうと考えております。

これは、高齢者の事故対策の必要性ということで、全国と北海道を見ておりますが、北海道は、80歳以上になりますと途端に物すごい勢いです。要は、北海道は高齢化が全国に先駆けて進展していますので、この先、北海道は実はかなりきついことになりそうです。高齢化が進展して、高齢者の事故が

高齢者事故対策の必要性

北海道における交通事故死者数は減少傾向が続いているが、年齢層別人口10万人あたりの交通事故死者数では、高齢者になるにつれて、著しく増加しており、特に80歳以上の高齢者において、北海道は全国約1.6倍である。

北海道における状態別交通事故死者数の推移では、非高齢者の自動車運転中が大きく減少している。高齢者では歩行中の事故が約半数を占め、変わらぬ推移している。

増えて、結果的に、事故が減るところか増えてくる可能性も今見てとれるわけです。特に高齢者の事故の特徴というのは、歩行中の事故が多いということでございます。

人対車両事故が多い道路の乱横断状況

横断歩道付近以外での乱横断が頻発
高齢者は横断所要時間が長いにもかかわらず、横断するタイミングが一般の人と変わらない

これは、事故が多いところで24時間調査をしたところなんです。ちょっと映像を映してください。

実は、ここに人がいます。人が立っております。何を考えてか、バスが動く中を渡り始めます。この区間は高齢者の事故が多くて、特に歩行者の事故が多い区間で、これは特殊な例ではなくて、観測していくと、1日に必ず1人や2人こういう人がいます。ほとんど車が止まらない方もおかいのですけれども、渡る方も渡る方なんです。

この方は1回こっちを見るんですね。こっちを見て、こっちを見ますから、ちょっと見ててください。この人に着目です。こ



こちらを見ます。こちらを見ます、渡ります。急に來ているんですね、もう。本来もう一回見なければいけないのに、今回、車側が止まってくれています。この人は平気でゆっくり渡っていますけれども、バスは関係なく來ています。もしここにバイクが來ていたら、多分引かれていますね。

これは同じ箇所です。どこかといいますと、小樽市です。午後です。小樽駅からちょっと高速に近づいたところで、もう本当に多いです。皆さん氣をつけてください。



こういう方々の対策をどうしようかということで、道路側としては、ドライバーにとっては、最近こういうものが出ています。カラー舗装で、もう路面に色をつけて、どっちに行きたいかと迷わないように。

東京の地下鉄を歩くと、みんな地下鉄の方に色で分かれています、それを道路に



もつけてしまっているということで、ここまでやらないと、もう自分がどっちに行きたいのかもわからなくなってしまうということで、ドライバーとしては、こういうわかりやすい道路というのを今、道路側としては対策をしているのですが、歩行者側にはなかなか対策が取れない、難しいということですね。



先ほどの図ですが、やはりこういったもので皆さんに啓蒙していくしかないというのが、今のところ取れる対策としてはあります。勿論、何かの技術革新というものがあって歩行者に危険を知らせるという技術的なITS、そういった高度な技術が開発できればいいのですけれども、今のところは、やはり啓蒙活動かなと考えています。

これは、イギリスの交通省がつくったキャンペーン、シンクというものです。これ



は、交通省がビデオをつくっています。ちょっと見ていただけますか。

先ほどのおばあさんの例でいくと、右見て、左見て、おっとということ、要は、右見て、左見ただけでは足りないんですね。もう一回見る。先ほどのおばあさんと同じなんですけれども、要は、もう一回右を見ると。

これは、イギリスの交通省がビデオをつくって、テレビ局は、実は無償で流しているんですね。



特に、これはかわいいアニメですけども、子ども向けの交通安全のキャンペーンです。

これは、子どもの夕方の時間に流したりするそうです。

渡ろうとすると、親が怒って、ストップ・ルック・リッスン・ライトというんで

すか、要は、子どもが御飯を食べるときに、こういうビデオをテレビ局は無償で流して、交通省はそれを、勿論お金がかかりますけれども、つくって、そうやってキャンペーンをしていくと。

我々としても、こういったものは一つ示唆されるべきではないかと思うのですが、日本では、どうしても交通事故のキャンペーンとかは、テレビ局はゴールデンタイムというよりは、朝早い時間とか、深夜とか、そういう余り人の見ていないときに流しがちですが、やはり官民挙げてこういう活動というのもありかなと思います。

まとめ

- 北海道では、平成12年から交通事故死者数は大きく減少した。日本全国では、平成4年から減少傾向が続く。
- 大きく減少した原因は、多くの要因が複雑に絡み合い、特定が難しい。ただし、一般国道、非市街地の単路と交差点における交通事故、24歳以下、65歳以上の交通事故の死者数の減少が大きく貢献している。
- 今後、人口構成の推移を考慮すると交通事故死者数が大きく減少することが難しい可能性がある。
- 特に高齢者の増加と共に、交通事故死者数が微減または増加に転じる可能性も考えられるので、新たな対策手法の開発が期待される。

まとめでは、やはり事故減少というのが続いてきたのですが、これからは少し減少というのがなかなか難しくなってくると。今65歳以上の死者数の減少が大きいと言っていますけれども、これからの次の世代というのは非常に事故率の高い世代が控えていますので、そういったこと、これはちょっと萩原先生にコメントしていただきたいと思うのですが、それとあと、人口構成の推移を考慮すると、今後大きく減少することが難しい可能性があって、高齢者の増加とともに、我々としては新たな対策手法の開発が待たれるところかなというか、努力しなければいけないと考えています。